実盛人形　天へ昇る

【稲の虫を松明で追い払いながら】

７月８日（土）、雷や雨が心配されましたが、４年ぶりに「祖父江の虫送り行事」が行われました。「祖父江の虫送り」は、県指定文化財であり、今から８４０年前に実在していた斎藤別当実盛に由来していると言われています。

明るい時間帯に、多くの地域の方や子ども達が集まり、麦わらで実盛人形や松明を作成し、夜の行事に備えます。

祖父江中学校に赴任して３年間は、コロナウイルス感染症の影響によって、中止が続いていました。そのため、見るのも参加するのも初めてでした。写真では見たことがありますが、実際の実盛人形は想像以上に大きく、等身大であることから、当時の武将の勇ましさを感じました。また、中学生や小学校高学年の子ども達は、長さ３ｍもある松明を数人で抱えながら、稲の虫を追い払うために一生懸命畦道を歩いていました。そして、最後のクライマックスを迎える場所まで辿り着いたときには、３ｍもあった松明が種火となるには丁度良い長さとなり、実盛人形を天へ昇らせるための火として一つに集められていました。

【松明を一つの火として集める】

稲沢市には、国指定文化財２４件、県指定文化財３５件、市指定文化財１３２件が残されてます。その中で「祖父江の虫送り行事」は、無形民俗文化財の一つとして登録されています。無形民族文化財は、人から人へ「わざ」として伝えられるものであり、それを体得することで初めて受け継がれていくものです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、３年間中止せざるを得なかった「祖父江の虫送り行事」でしたが、「ここで伝統を途絶えさせるわけにはいかない」という虫送り実行委員会の皆様をはじめ、地域の方々の熱心な取組のおかげで、伝統がまた一つ未来へ受け継がれることとなりました。日本全国を見たとき、過去には、残念ながら文化財を受け継ぐ人がみつからずに、残すことを断念したものもあります。また、昔ながらの形では受け入れられず、現代の見方・考え方に合わせた内容に変化させながら、受け継いでいくことを選択したものもあります。

まだまだ、適度な距離をとることが求められている今、伝統の重みを感じながら一本一本の松明と一体の人形に、「豊作」の祈りを込めて人と人が丁寧に作り上げていく伝統行事。地域の子ども達が、この夜に体験したことを忘れずに、やがては自分たちの手で伝統を守るため、先頭に立って「実盛人形」を担ぎ、天に昇る武将実盛を見守っていてほしいと思います。

【実盛人形　天へ昇る】